

編 集 後 記

5月の土曜日、ゼミの学生たちと遠足に出かけた。竜ヶ崎キャンパスを出発し、途中、トトロの森のような愛宕神社、竜ヶ崎市歴史民族資料館などを経て、最寄りの佐貫駅までの8km程の道のりを3時間以上かけてブラブラ歩いた。

愛宕神社はその昔、飛地であった竜ヶ崎に仙台藩伊達家が建立した神社であり、胸高直径2m余りのご神木も健在である。歴史民族資料館には当地の雨乞いの奇祭、「撞舞」(つくまい)の様子を示す模型もあり興味深い。

田植えが済んだばかりの田んぼを左に見つつ、里山の縁に沿いながら歩く。そのうち旧水戸街道に合流した。かつて大名行列や、水戸家の順姫様、隣姫様が京都へ向かう道中として利用した道筋は、車が徐行しながらやっとすれ違えるほどの道幅で、電柱をうまく隠したら、そのまま時代劇のセットに使えるような趣である。

牛久沼放水路と小貝川が合流する国土交通省牛久沼排水機場近くの土手で大休止。草野球の試合は終了直前、あのピッチャーはまあよく打たれること。燕が巣材を集めている。雲雀が上空でホバリング、水面を渡ってくる風が心地よい。

イラクでの拷問・虐待、三菱自動車、年金未納、拉致被害者、みな深刻である。一方でいつものように犬を散歩させる人、バス釣りに興ずる人の日常がある。たまには田舎を歩いてみませんか。

(2004年6月 古井)